

類型 ( 文 )

履修規定 ( 必修 )

学習の目標		使用する主な教材					
1 化学反応の量的関係、酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに日常生活や社会と関連付けて考察できる。 2 気象や天文について、その仕組みを理解し、地球環境の諸問題について原因を考察する。 3 問題解決のために化学・地学についての知識を身に付ける。		・『理科学習資料探究』 高教研理科部会 ・教科書『新編 化学基礎』 東京書籍 ・教科書『地学基礎 改訂版』 啓林館 ・プリント					
期	月	学 習 内 容	学 習 の 具 体 的 内 容 と ね ら い	主な評価の観点			
				①	②	③	④
一 学 期	4	電気分解	・電気分解とはどのような現象であるかを理解し、電気分解によって両極で発生する反応を考察できるようにする。 ・電気量について学習し、電気分解の量的関係を考える。 ・身近な電気分解の事例について学び、別子銅山で行われていた銅の精錬について学習する。 ・有効数字の扱い方や実験器具の使い方を学習し、正しく実験し、結果を表す方法を身に付ける。 ・物質質量を用いて様々な量を表す方法について復習し、演習問題を通して様々な単位への変換を身に付ける。 ・溶液の濃度の表し方として、質量パーセント濃度とモル濃度について復習し、それぞれの表し方を相互に変換する方法を身に付ける。	○	◎		
	5	電気分解の法則 銅の精錬		○	○	◎	◎
	6 7	有効数字とその扱い 実験器具の使い方 重要事項の確認・適切な実験や観察の考察			○	○	◎
二 学 期	8	海洋の循環	・海洋の循環の様子や大気と海洋による熱輸送について学び、地球規模での気象現象や環境問題について考察する。 ・宇宙誕生から現在の姿になるまでの様子を学習する。 ・太陽の構造や太陽によって発生する現象を学習し、遠く離れた星が地球の環境に与える影響について考察する。 ・太陽系の天体の特徴について学習し、地球に生命が誕生した理由について他の惑星と比較しながら考察する。 ・愛媛県の事例も交えながら、地質と地史について理解し、考察する。		○		◎
	9	大気と海洋					
	10	エルニーニョ現象 地球温暖化 宇宙の構造と太陽		○	○		◎ ◎
三 学 期	11	太陽系の中の地球		○		◎	
	12	地質と地史	○	◎			
三 学 期	1	重要事項の確認・適切な実験や観察の考察	・化学的または地学的な知識を利用する総合問題に取り組み、身に付けた知識を活用して新たな現象を理解する方法を学ぶ。		◎		○
	2						
	3						
評価の方法	①「関心・意欲・態度」：科学について関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 ②「思考・判断・表現」：科学的な現象について考察し、導き出した考えを表現している。 ③「観察・実験の技能」：観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理している。 ④「知識・理解」：科学的な現象について理解し、知識を身に付けている。 以上4つの観点を考慮しながら、成績は定期考査の得点に平常点（学習態度、課題、小テスト、ノート等）を加味して100点満点で算出する。学年末の成績は、各学期の成績をもとに算出する。						
備考							